

真田幸村公 大坂城入城400周年を活かした地域づくり事業

概要

和歌山県九度山町は人口4,700人の過疎の町である。特産品富有柿をはじめとする第一次産業が主力であるが、後継者不足や少子高齢化が深刻な問題となっている。現在は世界遺産・戦国武将真田氏、清流丹生川など地域資源を最大限活用した地域づくりを進め、観光による活性化を推進している。

事業の内容

事業の内容

本町ゆかりの戦国武将「真田幸村公」(=町民のヒーロー)をテーマとした地域づくりを推進する。そのことにより地域資源のもと住民の意識を一体化させ、また、対外的には「真田氏ゆかりのまち九度山」を大々的にPR、交流人口の増加を目指す。具体的には①まちなかエリアの基本計画(構想)の策定②記念イベント開催③観光PRツールとしての甲冑制作を行う。

総事業費

12.9百万円

ポイント

- 町民の地域資源に対する意識を高め(地元愛の再確認)、住民参加型のまちづくりを推進する。
- 真田氏ゆかりの各自治体と連携することで、1地域で行うよりも効果的な情報発信、交流人口の増加を推進。

事業の成果

- ①住民参加によりまちなかエリアの計画を策定する事が出来た。今後の事業実施についても住民と一体となり推進する気運が高まった。
- ②ミュージカルを柱としたイベントを開催。真田氏ゆかりの各自治体(長野県上田市、大阪市)とも連携、町民の意識向上と共に対外的に「真田氏ゆかりの地九度山」を情報発信した。
- ③真田三代(真田昌幸・幸村・大助)の甲冑を制作し、特産品や観光PRに活用した。現在の戦国ブームに乗って甲冑姿によるPRは非常に注目を集めた。次年度以降も効果的に活用する。

和歌山県九度山町

基本計画検討会



イベントの様相



甲冑を活用したPR活動

